

鹿児島の植物 66

口永良部島の植物

植物担当 久保 紘史郎

島民に愛されるエラブツツジ

口永良部島の植物で一番に紹介したいのはマルバサツキです。地元ではエラブツツジと呼ばれ、島民に親しまれているツツジです。マルバサツキは崖地や山頂付近など、他の樹木が生育できないような厳しい環境に生えます。特に古岳山頂の群生は素晴らしく、時期になるとピンクの絨毯^{じゅうたん}を敷き詰めたような景色が広がるそうです。現在は火山活動の影響で山頂付近の群落に近づくことはできませんが、規制が解除された際には是非とも行ってみたい場所です。



古岳山頂付近のマルバサツキ群落
(写真提供：えらぶ年寄り組)

生き残っていたタカツラン

タカツランは光合成をせず、根に共生する菌類が、落ち葉などを分解することで作りだした栄養を利用しています。口永良部島ではスダジイの巨木が生える森に群生していることが知られていました。しかし、火山活動の影響で生育地は破壊され、絶滅したのでないかと心配していました。調査の結果、3個体の生育を確認することができました。



タカツラン

希少なラン

口永良部島では希少なランが生育しています。しかし、島までのアクセスに時間がかかるため十分な調査が行われず、最近になって発見されたものもあります。

カクチョウランは鹿児島県希少野生動植物種に指定される貴重な植物で、2015年に生育していることが報告されました。また、トクサランは2016年、新岳北部のスギ林内に群生しているのが発見されました。詳しく調べれば、まだまだ多くの希少植物が見つかるかもしれません。



カクチョウラン



トクサラン

回復する植生

2015年5月の噴火により、新岳山頂から向江浜に火砕流が流れました。樹木の葉や枝先は枯れ落ちてしまい、一見するとすべてが枯死したかのように見えました。噴火から1年半後の2016年11月に火砕流跡地で調査したところ、樹木の幹からたくさんの葉が芽吹いていました。また、足元を見ると、ヒサカキやシマイズセンリョウの芽生えや、ユノミネシダなどが生育していました。少しずつですが、元の豊かな森に戻りつつあると感じました。



回復する植生